

和歌山への提言

—元気を取り戻そう

陳 暁輝

和歌山大学に入る前に、私は和歌山については白浜しか知らなかった。実際和歌山に来て、住み始めれば、とても住みやすい街であることがわかった。しかし、この和歌山に元気がないと私は気づいた。それはなぜだろうを考えていきたいと思う。

和歌山は、太平洋に面した日本で最も大きい半島である紀伊半島の南西に位置する自然の恵みと歴史の資産あふれる地域である。みどり豊かな山々に富んだ海岸線、これらを結ぶ清流が四季を通じ、織りなす景色や風物は人の心をとらえてやまない。特に、すばらしい歴史・文化資産は、世界遺産に登録された。また、温暖な気候と豊かな自然は、山、川、海の恵みを生み、多くの観光資源や物産を育てている。和歌山についての紹介を聞くと必ず歴史のある観光地と農業の話が聞かれる。ここで、観光と農業について述べたいと思う。

観光と言えば、和歌山市の和歌山城、白浜町の白浜温泉、那智勝浦町の紀伊山地の霊場と参詣道などが代表である。日本有数の温泉地であり、かつ和歌山マリーナシティ・ポルトヨーロッパ、アドベンチャーワールド、白浜エネルギーランドなどのレジャー施設もあり、夏には海水浴客も多く訪れる。また特徴的な観光として、社寺参拝（熊野三山、高野山、西国三十三箇所の1番青岸渡寺・2番紀三井寺など）があり、最も客数が多い。熊野三山への参詣道と高野山は、2004年（平成16年）7月7日に世界文化遺産に登録された。また最近は、古式捕鯨で有名な熊野灘がホエールウォッチング



のスポ
ットと

して新たに注目され始めている。和歌山市を中心とする紀北地方では大阪方面からの日帰り旅行客が多く、日帰り入浴・遊歩道・ハイキングコース・キャンプ場などが多数設置されている。他には、釣り・花見・観光果樹園なども特色である。



和歌山の特産物は何と聞かれば、みかん、梅干しなど思い出す。和歌山県は果樹王国いわれ、果物の栽培が非常に盛んである。ウィキペディアによると、みかん、梅、はっさく、じゃばら、柿、山椒の産量が全国1位であることが分かった。

ここでは、問題点が現れた。観光と農業は確かに経済効果をもたらす。しかし、元気をもたらすとはいえない。なんで観光が元気をもたらさないと疑問を持っている人がいるだろう。観光という言葉の意味は辞書によると、他の国や地方の風景、史跡、風物などを見物することである。すなわち、和歌山での観光とはよその人が和歌山の歴史や風景を見に

来ることである。よその人、所詮よそであり、短い間和歌山に滞在し、結局帰ってしまう。観光客によってもたらした元気は所詮一時的なものであり、長く続かない。また、春や秋に入ると白浜へ行く観光客が減る。那智勝浦の滝も去年の台風の影響で観光客も減った。すなわち、観光地は一年中いつでも訪れるわけではない。では、どうすれば和歌山の元気を取り戻すか。私は、地元の住民に注目すればいい。

元気といえば、若者を連想するだろう。しかし、私は和歌山で一年間過ごし、面白いことを見つけた。それは、和歌山の若者たちは買い物するとき皆大阪まで行くことである。片道890円の切符代と一時間を使って、この和歌山ではなく、ほかの道都府県まで行き、買い物するのはなぜ。私は、2つの原因があると思う。一つは、和歌山での移動はかなり不便であること、和歌山市内での移動はほぼバスに便りしかなく、バスの運賃が高い。もう一つは、和歌山の中心地と言え、JR和歌山駅から紀伊三井寺までであることが多くの人が思っているだろう。しかし、そこら辺に行っても、店もそんなに多くなく、若者がほしいものがあるが、選択する余地がない、しかも値段が高い。すなわち、若者が好きそうな店の少なさと和歌山での移動の不便さが、彼らを大阪まで買い物に行かせる推進剤ではないか。CMでの言葉を借りると、買い物は日本の力になる。買い物は和歌山の力にもなる。

したがって、元気を取り戻すために、まず元気の源である現地の若者を取り戻すと私は考える。